

学校外教育の効果

――高校段階への着目――

東北大学大学院文学研究科
総合人間学専攻
行動科学専攻分野 D1
眞田 英毅
teeeeruki@outlook.jp

研究の背景と目的

● 研究の背景

- ・高等教育進学率の上昇，「大学全入時代」

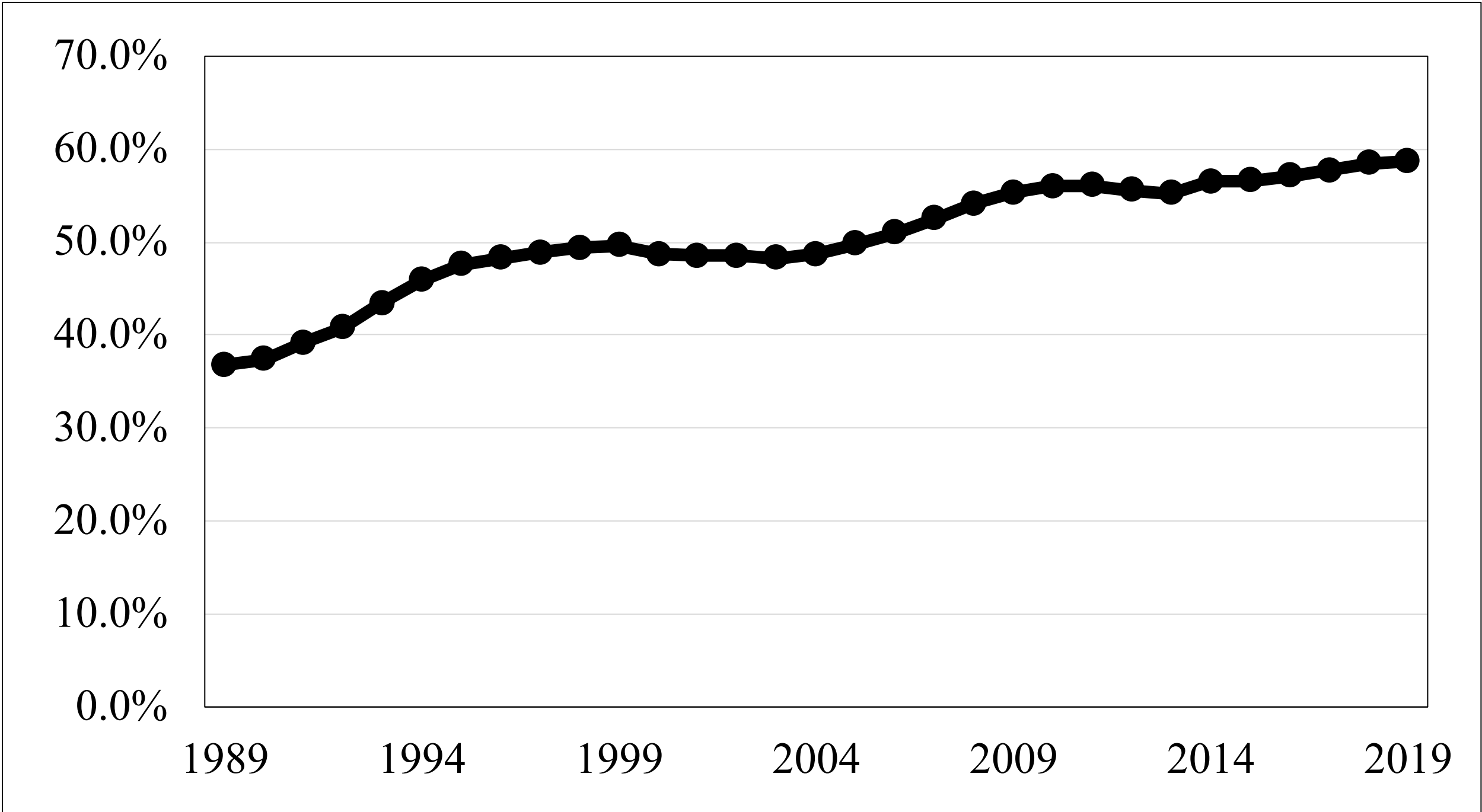


図1 高等教育進学率の推移
(出典：文部科学省の「学校基本調査」より筆者作成)

● 学校外教育に関する先行研究

- ・小学校時代の学校外教育経験は高校生の勉強時間に有意な影響を与える（鳶島 2012）
- ・中学校時代の
 - ▷通塾経験は，進学校進学に効果がある
 - ▷家庭教師や通信教育は効果がない（中澤 2013など）

● 先行研究の限界と本研究の目的

- ・先行研究の多くは小学校や中学校段階における学校外教育の効果を検討
- ・大学全入時代にはどのような大学に進学するか，という質も重要なのではないだろうか

→RQ：高校生時の学校外教育経験は，より偏差値の高い大学（銘柄大学）への進学を促進するか
どのような子どもが学校外教育を利用してより”ランクの高い”学校に行っているのか

分析手法

● データ

- ・東大社研・壮年パネル調査データ
「働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査」
抽出法：層化二段無作為抽出法
対象：2007年時点で20~34歳の若年層と35~40歳の壮年層
回収率：Wave1 若年 34.5%，壮年 40.4%
Wave2 若年 80.7%，壮年 87.0%

● 方法

- ・傾向スコア分析（IPW重み付け）
- ・林(2011)，中澤(2013a, 2013b)を参考にモデルを作成
 - ①処置変数を従属変数とした二項ロジスティック
 - ②ウェイトを計算 ③重み付け二項ロジスティック
- ・男女別に分析を行う
※分析にはR(3.5.0)を使用

変数

● 処置変数

- ・通塾経験
- ・家庭教師経験
- ・通信教育経験

● 従属変数

- ・どの大学に進学したのか（二値変数）
銘柄大学，それ以外の高等教育機関（大学，短大，専門）
※中澤(2018)を参考に銘柄大学を設定

● 独立変数

- ・性別（男性ダミー）
- ・15歳時暮らし向き
- ・15歳時本の冊数
- ・兄弟姉妹数
- ・本人大卒志望ダミー
- ・親学歴（高卒ダミー）
- ・親職業（ref 専門管理）
- ・事務販売ダミー
- ・マニュアルダミー
- ・大学進学率別高校進学校 中堅校 進路多様校

分析結果 塾

	男性		女性	
	B	S.E.	B	S.E.
切片	-3.84 ***	0.85	-5.32 ***	1.39
年齢	-0.18	0.22	0.48 †	0.27
通塾ダミー	-0.24	0.25	0.57 *	0.28
家庭の豊かさ	0.05	0.14	0.04	0.17
15歳時大卒アスペレーション	0.66 †	0.37	1.26 *	0.51
兄弟姉妹数	-0.25	0.16	-0.26	0.18
親高卒ダミー	-0.55 *	0.25	-0.29	0.31
親事務販売ダミー	0.07	0.26	-1.18 ***	0.33
親マニュアルダミー	-0.73 *	0.29	-1.16 ***	0.34
進学校ダミー（ref 進路多様校）	3.03 ***	0.65	3.09 *	1.20
中堅校ダミー（ref 進路多様校）	1.59 *	0.65	2.02 †	1.21
通塾×高卒ダミー	-0.12	0.52	0.22	0.58
AIC	612.05		488.41	
Nagelkerke R^2	0.28		0.26	
N	750		922	

分析結果 家庭教師

	男性		女性	
	B	S.E.	B	S.E.
切片	-5.17	21.06	-5.37 ***	1.28
年齢	-0.07	0.22	0.56 *	0.26
家庭教師ダミー	-7.52	316.79	-0.75	0.61
家庭の豊かさ	0.05	0.14	0.12	0.16
15歳時大卒アスペレーション	0.74 †	0.38	1.43 **	0.53
兄弟姉妹数	-0.15	0.16	-0.32 †	0.18
親高卒ダミー	-1.45	44.23	-0.27	0.30
親事務販売ダミー	0.12	0.26	-1.12 ***	0.31
親マニュアルダミー	-0.65 *	0.30	-1.22 ***	0.33
進学校ダミー（ref 進路多様校）	3.64 ***	0.87	2.87 **	1.06
中堅校ダミー（ref 進路多様校）	2.13 *	0.88	1.74	1.06
家庭教師×高卒ダミー	-14.08	666.25	1.04	1.23
AIC	542.10		444.69	
Nagelkerke R^2	0.29		0.26	
N	750		922	

分析結果 通信教育

	男性		女性	
	B	S.E.	B	S.E.
切片	-4.49 ***	0.95	-5.34 ***	1.29
年齢	-0.26	0.22	0.49 †	0.27
通信教育ダミー	1.47 ***	0.31	0.71 *	0.36
家庭の豊かさ	0.10	0.15	0.12	0.16
15歳時大卒アスペレーション	0.27	0.33	1.54 **	0.55
兄弟姉妹数	-0.12	0.16	-0.33 †	0.19
親高卒ダミー	-0.56 *	0.26	-0.36	0.31
親事務販売ダミー	0.26	0.26	-1.22 ***	0.31
親マニュアルダミー	-0.55 †	0.30	-1.23 ***	0.34
進学校ダミー（ref 進路多様校）	3.59 ***	0.77	2.72 *	1.08
中堅校ダミー（ref 進路多様校）	2.12 **	0.76	1.62	1.09
通信教育×高卒ダミー	-0.14	0.61	1.08	0.73
AIC	556.93		446.94	
Nagelkerke R^2	0.29		0.26	
N	750		922	

まとめと考察

● まとめ

- ・学校外教育経験で効果がみられたのは女性の通塾経験・通信教育経験と男性の通信教育経験だった
- ・親の学歴は男性の通塾経験と通信教育経験のみ負の有意な効果がみられた
- ・親の職業はほぼ全てで負の有意な効果がみられた
 - ▷男性に関してはマニュアル職の場合はどのモデルでも親が専門管理職よりも銘柄大学に進学しにくい
 - ▷女性に関してはどのモデルでも親の職業が専門管理職よりも事務販売職・マニュアル職の方が銘柄大学に進学しにくい
- ・それぞれの学校外教育経験と親の学歴との交互作用項は有意な結果は確認できなかった

● 考察

- ・高校時代の一部の学校外教育は銘柄大学への進学に効果があるといえる
特に高校生活は忙しいため，通信教育のような隙間時間で勉強できる形態がより効率的であるのかもしれない
（もちろん通信教育を始め続けられる子どもは，そもそも勉強時間を確保できるやる気のある子どもである可能性も排除できない）
- ・進学率の上昇に伴って，学校外教育経験にて中堅層が進学しやすくなっているかもしれないが，銘柄大学へは階層の再生産がまだ根強く残っている

● 今後の課題

- ・従属変数を専門短大，一般大学，銘柄大学として多項もしくは順序ロジットを行う
- ・親の学歴と職業の操作化を再検討

[Acknowledgement]

・本研究の二次分析にあたり，東京大学社会科学研究所 附属社会調査・データアーカイブ研究センター SSJデータアーカイブから「東大社研・パネル調査」（東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクト）の個票データの提供を受けました。また，「東大社研・パネル調査」特別データに関して別途利用申請をおこない，審査承認を受けました。
・本研究の一部は東北大学人工知能エレクトロニクス卓越大学院プログラムの支援を得て行われたものです。